

# UGC がもたらすファンサブ革命

## メディアから見る中国ファンサブ・字幕組

### 要旨

氏名：李宗軒

ファンサブは、アニメ・ドラマ・映画などの海外映像コンテンツを愛好者が字幕翻訳する現象である。本論は、学術研究の対象として十分な分析がなされてきたとは言いがたい中国ファンサブ現象について、先行研究の中国ファンサブに関する定義や歴史などの情報不足を指摘し、新たな視点から補足することを目的としたものである。

2 章で中国ファンサブの基礎的な情報を整理し、展開と現状について概観して先行研究についても日本語・中国語・英語の文献について整理した。3 章では、2 章でまとめた内容に基づき、先行研究に存在する問題点として、中国ファンサブの定義の仕方や、萌芽期および近年の状況に関する情報不足を指摘し、補足した。また特に、実際に起きていたファンサブグループの不法所得の問題から、「非営利」と指摘されてきた性質は成立し得ないことを証明した。

4 章では、VTuber 字幕組の紹介からはじめ、UGC (User Generated Contents) ファンサブという概念を採用し、ファンサブ環境の変化について考察した。

VTuber 字幕組は UGC ファンサブ現象の一種と言え、UGC ファンサブの対話性から従来の非対話的な NIC (Non-Interactive Contents) ファンサブと、「非営利」という点のみならず、「非合法」の性質からも大きく異なることを明らかにした。

UGC ファンサブの対話的環境の形成には UGC の性質だけではなく、動画サイトが重要な役割を果たしている。ブローカー (broker/brokerage) という視点を導入することで、NIC ファンサブでも動画サイトのブローカーとしての機能に

よって、UGC ファンサブと類似する対話的な環境を実現することが可能となることも指摘した。

5章では、動画サイトというメディアの機能によってUGC ファンサブが出現した事実から、従来の中国ファンサブ研究におけるメディアの変化という視点の欠如を指摘した。対話性の変化はメディアの変化によるところが大きいと言え、それは中国ファンサブ研究ばかりではなく、中国における海外コンテンツ受容についての研究にも大きな意味を持ちうる。

ファンサブは時代とともに変化し、UGCによって新しいファンサブの革命が起きたと言える。同じコンテンツでも時代や地域によってファン文化の違いがあり、より中国のファン文化にフォーカスした検証が必要であり、ファンサブ研究、ひいてはファンダム研究においても過度に抽象化せず現象を分析する研究が今後必要であることを示した。